

## 【理事会企画③】

### 「新潟水俣病と妊娠規制：生殖をめぐる優生思想を問い直す」

パネリスト：浦崎貞子（うらさき檸檬助産院・元新潟青陵大学教員・熊本市）

後藤岩奈（新潟県立大学教員・新潟市）

オーガナイザー：佐藤 静（大阪樟蔭女子大学教員）

新潟水俣病事件においてなされた妊娠規制という行政指導、その詳細は浦崎貞子氏はじめ新潟青陵大学の教員たちがその実態調査を行い論文が書かれるまでは水俣病研究者たちの間でさえもほとんど知られてこなかった。論文の刊行後も、なぜか一部をのぞいてこの問題はほとんど注目されずにきた。そして、この問題に関心を寄せた一部の人というのはそのほとんどが女性であった。もちろんその診療にあたってきた医師たちはこのことを知っていたし、新潟の医師で水俣病患者さんたちの支援にあたってきた関川智子氏は当事者の患者さんとの対話を活字にして刊行している。ではなぜ、この問題が新潟水俣病事件においてここまで後景化されてきたのか。その点について優生思想およびフェミニスト倫理学の観点から検討を加えたのが佐藤静による論文（佐藤 2020）である。

当初は佐藤による基調講演を、とのことであった。しかし佐藤の論文は浦崎論文なしには書けなかったものである。そのため、この問題のパイオニアであり重要な先行研究を著された浦崎氏のお話を直接聞くことのほうが参加者の方々にとっても有意義な時間になるであろうということで、講演ではなくワークショップ形式への変更を大会事務局の方々にご快諾いただいた。また、妊娠規制については第一に女性の問題ではあるが、新潟水俣病における生殖の問題、とりわけ男性の位置づけと男性性について、文学研究者の立場から新村苑子氏の小説を題材に考察を行った新潟県立大学の後藤岩奈氏による貴重な仕事がある。そこで、本ワークショップでははじめに佐藤よりその概要について説明を行う。そして、浦崎・後藤両氏よりそれぞれの研究概要やその背景についてお話をいただく。以上の報告を手がかりに、参加者の皆さんと新潟水俣病事件における生殖をめぐる優生思想について問い直す場としたい。

#### 【主要文献】

浦崎貞子(2005)「ジェンダーの視点からみる新潟水俣病：『妊娠規制』『授乳禁止』の検証と考察」新潟大学大学院現代社会文化研究科編『現代社会文化研究』第 34 号、107－122 頁。

浦崎貞子(2010)「新潟水俣病事件における妊娠規制と授乳禁止の検証：ジェンダーの視点からの接近」医学評論社編『医学評論』第 110 号、26-35 頁。

後藤岩奈(2019)「新村苑子『律子の船 新潟水俣病短編小説集Ⅰ』について」国際地域研究学会編『国際地域研究論集』第10巻、105-113頁。

後藤岩奈(2020)「新村苑子『葦辺の母子 新潟水俣病短編小説集Ⅱ』について」国際地域研究学会編『国際地域研究論集』第11巻、57-66頁。

斎藤 恒(1996)『新潟水俣病』毎日新聞社。

佐藤 静(2020)「新潟水俣病維持件における妊娠規制の問題：優生思想とフェミニスト倫理学の観点からの検討」日本医学哲学・倫理学会編『医学哲学医学倫理』第38巻、11-19頁。

松村幸子ほか(2003)「行政で働く保健師の新潟水俣病に対する活動の検証」『新潟青陵大学紀要』第3号、161-181頁。

山田サチ子・関川智子(2011)「終わらないミナマタ：対談 新潟水俣病 女たちのたたかい」『女性のひろば：女性の生きがいと解放を語りあうあなたの雑誌』第383号、日本共産党中央委員会、57-65頁。